

2020 年度 研究所事業報告書

研究所名	国際地域研究所
------	---------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5 ヵ年)および 2019 年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうできるだけわかりやすく記述してください。なお、2019 年度に採択を受けた研究所重点プロジェクトの実績報告は、書式 B に記述のうえ提出してください。

本研究所(国際地域研究所[以下 国地研])は、1989 年の設立以降、国際関係学と地域研究の両分野において、先端的な研究活動をリードすることで、国内外の学術コミュニティに貢献しようと努めてきた。その大きな目標からみて、2015 年までの到達点を、国地研の「発展第一ステージ」、2016 年からの 5 年間を「発展第二ステージ」と位置づけている。この「第二ステージ」では、「国地研アイデンティティ」の創造と、その国内外への浸透を掲げて活動を進めてきた。国地研、あるいは立命館大学全体として豊富に知的蓄積がなされてきたのは、国際関係学分野においては「平和研究」であり、地域研究分野においては「アジア研究」である。この強みを生かし、さらに伸ばすことで、国地研を「平和研究」及び「アジア研究」の重要な研究拠点として、国内外に打ち出しすべく、2019 年度も活動を進めた。具体的には、2 つの重点プロジェクトを国際展開の牽引役として位置づけ、国内外に国地研のプレゼンスを発揮させることに務めた。同時に 6 つの研究所内プロジェクトを設置し、新規の萌芽的研究課題と、継続の研究課題の両方をバランスよく支援した。

その際、昨年以來意識してきた平和研究の「紛争・平和構築研究プロジェクト」と、アジア研究の「中国強国化プロジェクト」という二つの重点プロジェクトの連携強化・深化を、2020 年度も意識した。2019 年度土曜講座「中国の「一帯一路」構想と世界」から引き続き、2020 年度は中国強国化と、平和・秩序の問題を考える研究を進め、その成果を廣野美和編『一帯一路は何をもたらしたのかー中国問題と投資のジレンマ』(勁草書房、2021)として刊行するとともに、国際シンポジウム The Belt and Road Initiative: Globalizing China and Internalizing the BRI を主催した。

また、若手による研究成果発信を促すためにも、研究所として、若手メンバーの研究指導にも力を入れた。上記の一帯一路関係のプロジェクトには積極的に若手を登用し、また共同で論文指導を行ったうえで、その成果については国際地域研究所の和文紀要で発表させた。また、それをさらにアップグレードさせたうえで、上記廣野美和編の書籍においても、若手による論考が数多く収容されている。その他、プロジェクトとしての若手論文指導を経て、若手研究者による論文が国際ジャーナルに掲載されるなどしている。

その他意識したのは、新型コロナウイルス蔓延という状況に鑑み、研究所のホームページを活用し、ウェブコラムシリーズを刊行したり、ウェビナーを開催したりすることで、積極的に研究所と社会の接点を増やそうとした。

以上の活動を踏まえた、研究所の 2020 年度の主要な成果は以下の通りである。重点プロジェクトの「紛争・平和構築研究」では、新型コロナウイルス蔓延が、人々の平和と安全に与える影響を中心に研究し、その成果は、国地研ウェビナーシリーズ、国地研 web コラム「国際情勢解説」、その他ウェビナーなどによる発信に加え、図書 23 点、論文 23 本、学会発表 32 回、メディア掲載や講演 39 回と、昨年までに比べても大きく増加した。また、上記の通り和文紀要における特集号も組んだ。同じく重点プロジェクトの「中国強国化と国際秩序」では、図書出版 20 点、論文 21 本、学会発表 26 回、メディア掲載や講演 3 回と、こちらも大きく増加した。

研究所内プロジェクトは、「日米中政治経済研究会」、「中国法・アジア法研究会」、「中国語圏地域人文学研究会」、「アフリカ研究会」、「アフガニスタン研究会」、そして「平和主義研究会」が、それぞれ積極的な研究活動を行った。その成果は多岐に渡るもので、ここでは紹介しないが、以下の研究業績欄を参照して頂ければ幸いである。

総合的に、研究成果については 5 ヵ年計画と照らしても順調に進捗した。しかしながら、研究成果をいかに外部資金の獲得につなげていくかは、研究所にとって引き続き残された大きな課題であり、特に中型・大型の外部資金の獲得に向けて、努力と工夫が今後も必要であると改めて思う次第である。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2021年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
研究所長・センター長	足立研幾	国際関係学部	教授
運営委員	末近浩太	国際関係学部	教授
	本名純	国際関係学部	教授
	嶋田晴行	国際関係学部	教授
	岩田拓夫	国際関係学部	教授
	中本悟	経済学部	教授
	守政毅	経営学部	教授
	加部勇一郎	食マネジメント学部	准教授
	宮脇昇	政策科学部	教授
	小田美佐子	法学部	准教授
	廣野美和	グローバル教養学部	准教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	藪中三十二	国際関係学部	客員教授
	高須幸雄	国際関係学部	客員教授
	陳晋	経営学部	特任教授
	斎藤敏康	経済学部	特任教授
	石原直紀	国際関係学部	特任教授
	文京洙	国際関係学部	特任教授
	宇野木洋	文学部	特命教授
	君島東彦	国際関係学部	教授
	松田正彦	国際関係学部	教授
	中戸祐夫	国際関係学部	教授
	中川涼司	国際関係学部	教授
	板木雅彦	国際関係学部	教授
	三須祐介	文学部	教授
	上野隆三	文学部	教授
	植松健一	法学部	教授
	小杉泰	立命館アジア・日本研究機構	特別招聘研究教員(教授)
	安高啓朗	国際関係学部	准教授
	森下明子	国際関係学部	准教授
	鳥山純子	国際関係学部	准教授
	福海さやか	国際関係学部	准教授
	角本和理	政策科学部	准教授
	宮内肇	文学部	准教授
	馬場多聞	文学部	准教授
	廣澤裕介	文学部	准教授

	黒田彩加	立命館アジア・日本研究機構	特別招聘研究教員(准教授)	
	竇少杰	経営学部	講師	
	阿部沙織	言語教育センター	外国語嘱託講師	
	山本一	文学部	講師	
学内の若手研究者	① 専門研究員 研究員 初任研究員			
	② リサーチアシスタント			
	③ 大学院生	Jang Youngjoo	国際関係研究科	博士課程後期課程
		Khairul Hasni	国際関係研究科	博士課程後期課程
		Lee Jaiyong	国際関係研究科	博士課程後期課程
		Lwin Cho Latt	国際関係研究科	博士課程後期課程
		Mina Tadrous	国際関係研究科	博士課程後期課程
		Namid Ang	国際関係研究科	博士課程後期課程
		Polina Ivanova	国際関係研究科	博士課程後期課程
		Radesa Budipramono	国際関係研究科	博士課程後期課程
		ROCA Yamisle Barbara	国際関係研究科	博士課程後期課程
		Sugit Arjon	国際関係研究科	博士課程後期課程
		Yamamoto Andrei	国際関係研究科	博士課程後期課程
		Yusy Widarahesty	国際関係研究科	博士課程後期課程
		歩亦飛 (BU Yifei)	国際関係研究科	博士課程後期課程
		楊鵬超	国際関係研究科	博士課程後期課程
		藁谷達至	経済学研究科	博士課程後期課程
		山上亜紗美	政策科学研究科	博士課程後期課程
		Amar Rai	国際関係研究科	博士課程前期課程
		王易晨 (WANG Yichen)	国際関係研究科	博士課程前期課程
		王慶慧 (WANG Qinhui)	国際関係研究科	博士課程前期課程
		夏子淨 (XIA Zijing)	国際関係研究科	博士課程前期課程
		高爽 (Gao Shuang)	国際関係研究科	博士課程前期課程
		謝川	国際関係研究科	博士課程前期課程
		朱軒庁 (ZHU Xuanting)	国際関係研究科	博士課程前期課程
		張安煜 (ZHANG Anyu)	国際関係研究科	博士課程前期課程
		沈亜楠 (SHEN Yanan)	国際関係研究科	博士課程前期課程
		塚越匠	国際関係研究科	博士課程前期課程
		田曄 (TIAN Yi)	国際関係研究科	博士課程前期課程
		杜曼婷 (DU Manting)	国際関係研究科	博士課程前期課程
		馬軼楠 (MA Yinan)	国際関係研究科	博士課程前期課程
		楊心怡 (YANG Xinyi)	国際関係研究科	博士課程前期課程
		楊盛超 (YANG Shengchao)	国際関係研究科	博士課程前期課程
		李敬 (LI Jing)	国際関係研究科	博士課程前期課程
李妍君 (LI Yanjun)	国際関係研究科	博士課程前期課程		
劉政中 (LIU Zhengzhong)	国際関係研究科	博士課程前期課程		

		劉美杉 (LIU Meishan)	国際関係研究科	博士課程前期課程
		劉聚	国際関係研究科	博士課程前期課程
		濮安琪 (PU Anqi)	国際関係研究科	博士課程前期課程
		赵是歌	国際関係研究科	博士課程前期課程
	④ 日本学術振興会特別 研究員(PD・RPD)	池端露子	立命館大学	学振特別研究員(PD)
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究 生、研修生等)		申鉉旣	国際関係学部	授業担当講師
		円城由美子	国際関係学部	授業担当講師
		山根和代	国際関係学部	授業担当講師
客員協力研究員		韓金江	岐阜協立大学	教授
		鈴木章悟	マンチェスター大学	准教授
		岡野英之	近畿大学	特任講師
		田村太一	流通経済大学	准教授
		井出文紀	近畿大学	准教授
		玉井雅隆	東北公益文科大学	准教授
		森原康仁	専修大学	准教授
		小山大介	宮崎大学	准教授
		松村博行	岡山理科大学	准教授
		近藤信一	岩手県立大学	准教授
		鳥谷まゆみ	北九州市立大学	准教授
		魏聰哲	中華経済研究所	副研究員
		菊地俊介	BKC社系研究機構 社会システム 研究所	客員研究員
		楊秋麗	同志社大学	嘱託講師
		田村あずみ	滋賀大学	特任講師
		潘燕萍	深圳大学管理学院	講師
		南玉瓊	アジア人材研究所	非常勤講師
	城山拓也	東北学院大学	准教授	
	クロス京子	京都産業大学	准教授	
その他の学外者		白石隆	熊本県立大学	理事長
		アパラジタ・ビスワス	ムンバイ大学	名誉教授
		高島宏明	京都大学	特定教授
		Amitav Acharya	American University	教授
		Lam Peng Er	National University of Singapore	教授
		Mely Cabellero Anthony	Nanyang Technological University	教授
		Ukrist Pasmanand	Chulalongkorn University	教授
		長有紀枝	立教大学	教授
		高橋基樹	京都大学	教授

	パン・フアチン	北京大学	教授
	アジャイ・デュベイ	ジャワハルラル・ネルー大学	教授
	チャン・ヨンキュー	韓国外国語大学	教授
	ペドロ・カルバーユ	関西大学	教授
	スカーレット・コーネリセン	ステレンボシュ大学	教授
	朱曄	静岡大学	教授
	藤山一郎	和歌山大学	准教授
	井上博	阪南大学	教授
	櫻井公人	立教大学	教授
	千葉典	神戸市外国語大学	教授
	内藤正典	同志社大学	教授
	河知延	近畿大学	教授
	苑志佳	立正大学	教授
	向渝	香川大学	准教授
	村上友章	流通科学大学	准教授
	キム・ヒョスク	関西外語大学	准教授
	松本俊哉	鹿児島国際大学	准教授
	林裕	福岡大学	准教授
	山尾大	九州大学	准教授
	吉川卓郎	立命館アジア太平洋大学	准教授
	佐藤麻理絵	京都大学	助教
	中村聡一	甲南大学	准教授
	石田周	愛知大学	助教
	青木健太	お茶の水女子大学	助教
	Shofwan Albana C	University of Indonesia	講師
	Agus Trihartono	Jember University	講師
	ウ・ユシヤン	ヴィットウォーターズランド大学	ポスドクフェロー
	徐林卉	上海社会科学院	副研究員
	トリシア・ウィジャヤ	マードック大学	博士課程後期課程
	Nick Hambridge	ハーバード大学	シニア・アフィリエイト
	石川幸子	国際協力機構	国際協力専門員
	平賀緑	京都大学大学院経済学研究科	博士課程後期課程
	松嶋紀美子	大阪市大創造都市研究科	博士課程後期課程
	薛軍	南開大学(天津)	教授
	青山瑠妙	早稲田大学	教授
	大門毅	早稲田大学	教授
	ティムール・ダダバエフ	筑波大学	准教授

	梶谷 懐	神戸大学	教授
	Adhi Priamarizki	Nanyang Technological University, Singapore	Visiting Fellow
研究所・センター構成員 計 148 名 (うち学内の若手研究者 計 38 名)			

Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2021年3月31日時点)
また、書式Bの研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	君島東彦	憲法問題のソリューション	共著	2021年3月30日	日本評論社	市川正人ほか	pp.144-156
2	田村あずみ	不安の時代の抵抗論—— 災厄後の社会を生きる想像力	単著	2020年6月	図書出版花伝社		
3	山根和代	Museums for Peace Worldwide	共著	2020年10月	Lulu 出版	安斎育郎:共に編集	PP. 1-354
4	山根和代	世界における平和のための 博物館	共著	2020年12月	国際平和ミュージアム	安斎育郎:共に編集	PP.1-259
5	井出文紀	「国営企業と裾野産業育成 策——1980年代～90年 代のマレーシアの国民車 計画を事例に」	単著	2020年10月	前田啓一・塩地洋・上田曜 子編『ASEANにおける日 系企業のダイナミクス』晃 洋書房		pp.175-192
6	井出文紀	「マレーシアの地場企業 ——外資と地場中小企業 のリンケージ形成に向け て」	単著	2020年10月	前田啓一・塩地洋・上田曜 子編『ASEANにおける日 系企業のダイナミクス』晃 洋書房		pp.193-211
7	中川涼司	「一帯一路における貿易・ 投資・援助の三位一体的 展開—カンボジアを事例 に」	単著	2021年2月	廣野美和編『一帯一路は 何をもたらしたのか 中国 問題と投資のジレンマ』勁 草書房、		pp.91-108
8	森原康仁	「第5章 次世代産業と企 業の社会的責任」	単著	2021年1月	支え合う社会研究会編『資 本主義を改革する経済政 策』かもがわ出版		pp.174-204
9	嶋田晴行	グローバル・サウスと「途上 国」-途上国とは何か?	単著	2021年3月	『地域研究へのアプローチ -グローバル・サウスから読 み解く世界情勢』 ミネルヴァ書房	児玉谷史朗・佐藤 章・嶋田晴行編著	PP31-57
10	内藤正典	イスラームからヨーロッパを 見る—社会の深層で何が起 きているのか	単著	2020年7月	岩波新書		
11	内藤正典	プロパガンダ戦争 分断さ れる世界とメディア	単著	2020年9月	集英社新書		
12	菊地俊介	日本占領地区に生きた中 国青年たち——日中戦争 期華北「新民会」の青年動 員——	単著	2020年7月	えにし書房		全288p
13	三須祐介	(翻訳書)『次の夜明けに』	単著	2020年9月	書肆侃侃房	(台湾)徐嘉澤著	全224p
14	三須祐介	濱文庫戯単図録:中国芝 居番付コレクション	共著	2021年1月	花書院	中里見敬・松浦恆雄 編	部分執筆
15	阿部沙織	文学の力、語りの挑戦: 中国近現代文学論集	共著	2021年3月	東方書店	宮尾正樹教授退休 記念論集刊行会	pp.27-40 「凌叔華の燕京 大学における 学び——女性作 家と教育」
16	城山拓也	夜の華——中国モダニズム 研究会論集	共著	2021年3月	中国文庫	中国モダニズム研究 会編	pp.202-229 「諷刺とユーモ ア——「小陳旅 京記」と「留京外

							史]について]
17	足立研幾	『プライマリー国際関係学』	共編著	2021年3月	ミネルヴァ書房	本名純、末近浩太、 鳥山純子、嶋田晴行	
18	末近浩太	『中東政治入門』	単著	2020年9月	筑摩書房(ちくま新書)		全336p
19	廣野美和	『「一带一路は何をもたらしたのか—中国問題と投資のジレンマ』	編著	2021年2月	勁草書房	足立研幾	
20	宮脇昇	『資源地政学』 「地政学の誕生と展開」「資源地政学と接続性・連結性」	共編著	2020年4月	法律文化社	稲垣文昭・玉井良尚	pp. 1-27
21	嶋田晴行	『地域研究へのアプローチ—グローバル・サウスから読み解く世界情勢』	共編著	2021年	ミネルヴァ書房		
22	山尾大	「紛争のインパクトをはかる——世論調査と計量テキスト分析からみるイラクの国家と国民の再編」	単著	2021年3月	晃洋書房		全296p
23	吉川卓郎	『ヨルダンの政治・軍事・社会運動 倒れない王国の模索』	単著	2020年12月	晃洋書房		全190p
24	末近浩太	「序章」『紛争下シリアにおける国家観の拡散』『紛争が変える国家』(シリーズ「グローバル関係学」第4巻)	共著	2020年9月	岩波書店	末近浩太、遠藤貢 編著	pp.1-21 pp.24-43
25	末近浩太	「序章 中東に生成される新たな「地域」『シリア・レバノン・イラク・イラン』(シリーズ「中東政治研究の最前線」第2巻)	共著	2021年2月	ミネルヴァ書房	末近浩太編 中村寛監修	pp.1-26
26	末近浩太	“Sectarian Fault Lines in the Middle East: Sources of Conflicts or Communal Bonds?,” Larbi Sadiki ed., Routledge Handbook of Middle East Politics.	共著	2020年4月	Routledge	Larbi Sadik 編 酒井啓子・末近浩太 共著	pp. 269-280
27	末近浩太	「シハード主義の系譜」『中東・オリエント文化事典』	共著	2020年11月	丸善出版	鈴木董・近藤二郎・ 赤堀雅幸編集代表	pp. 320-321
28	佐藤麻理絵	第7章「難民を救うイスラーム的 NGO—イスラームに根ざす支え合いの仕組み」『現代中東における宗教・メディア・ネットワーク—イスラームのゆくえ』	共著	2021年3月	春風社	千葉悠志・安田慎 編著	pp.171-192
29	鳥山純子	「美の基準」、「エジプト 台所と調理」『中東・オリエント文化事典』	共著	2020年11月	丸善出版	鈴木董・近藤二郎・ 赤堀雅幸編集代表	pp.28-229, pp.656-657
30	馬場多聞	『地中海世界の中世史』	共著	2021年3月	ミネルヴァ書房	馬場多聞、小林功 編著	
31	岡野英之	「シエラレオネにおける国家を補完する人脈ネットワーク—エボラ危機(二〇一四—二〇一六年)からの考察—」『紛争が変える国家』	共著	2020年9月	岩波書店	末近浩太・遠藤貢 編著	pp.188-207
32	山尾大	「計量テキスト分析による関係性分析」『グローバル関係学とは何か』(グローバル関係学 1)	共著	2020年9月	岩波書店	酒井啓子編 山尾大・久保慶一 共著	pp.168-190
33	山尾大	「変容するイラクの国家観—紛争の影響をはかる」末近浩太・遠藤貢編『紛争が変える国家』(グローバル	共著	2020年9月	岩波書店	末近浩太・遠藤貢 編著	pp.104-124

		関係学4)					
34	山尾大	“Regime Change and National Integration Policy: Focusing on Iraqi School Textbooks before and after the 2003 U.S. Invasion”, Iraq after the Invasion: People and Politics in a State of Conflict	共著	2020年7月	Routledge	Keiko Sakai and Philip Marfleet eds.	pp.153-171
35	山尾大	「準軍事組織の分断がもたらす奇妙な安定——IS 後イラクの政軍関係」末近浩太編『シリア・レバノン・イラク・イラン』(シリーズ「中東政治研究の最前線」第2巻)	共著	2021年2月	ミネルヴァ書房	末近浩太編 中村寛監修	pp. 97-119
36	宮脇昇	『国際レジーム』	共訳	2020年10月	勁草書房	スティーヴン・クラウナー著 河野勝 監訳	1,2,13 章
37	宮脇昇	『コロナに挑む内陸国 モンゴルの5人の証言と国境討論』	共著	2021年3月	志學社	ナンジン・ドルジスレン、玉井雅隆、玉井良尚	
38	本名純	『新興国から見るアフターコロナの時代: 米中対立の間に広がる世界』		2021年	東京大学出版会	川島真・池内恵編	
39	Yusy Widarahesty	<i>Southeast Asia, Infected and Interrupted: Elevating Critical Voices on the State of Human Rights and Peace in the Time of COVID-19</i>	Chapter contribution	2021	SHAPE-SEA	Joel Mark baysa-Barredo, Khoo Ying Hooi, and Herlambang Perdana Wiratraman eds.	
40	廣野美和	「一带一路は何をもたらしたのか: 中国問題と投資のジレンマ」	編著	2021年2月	勁草書房		編集全ページ (i-vi, 1-356p) 翻訳監修 pp. 189-278, pp. 305-350.
41	廣野美和	「一带一路という課題」	単著	2021年2月	廣野編上記書、第1章		pp. 3-24
42	大門(佐藤)毅	「一带一路と日本—「互恵的援助競争」の可能性」	単著	2021年2月	廣野編上記書、第3章		pp. 35-50
43	青山瑠妙	「計画外交で推進されている一带一路構想」	単著	2021年2月	廣野編上記書、第4章		pp. 53-70
44	梶谷懐	「一带一路構想は新興国に「債務の罠」をもたらすか」	単著	2021年2月	廣野編上記書、第5章		pp. 71-89
45	中川涼司	「一带一路における貿易・投資・援助の三位一体的展開—カンボジアを事例に」	単著	2021年2月	廣野編上記書、第6章		pp. 91-108
46	楊鵬超	「一带一路構想と対外援助の多様化」	単著	2021年2月	廣野編上記書、第7章		pp. 109-128
47	楊秋麗	「大型国有企業集団—「グローバル競争」志向改革への転換」	単著	2021年2月	廣野編上記書、第8章		pp. 129-147
48	薛軍	「民営企業—対外直接投資の特徴と問題」	単著	2021年2月	廣野編上記書、第9章	常君暁	pp. 149-169
49	守正毅	「華人ネットワーク—アジアの中華総集會と世界華商大會を事例に」	単著	2021年2月	廣野編上記書、第10章		pp. 171-186
50	ミニッド・アン (廣野美和監訳)	「タイ—東部経済回廊とタイ華人ビジネス階級」	単著	2021年2月	廣野編上記書、第11章		pp. 189-208
51	トリア・ウィジャヤ (廣野美和監訳)	「インドネシア—ジャカルタ・バンドン高速鉄道と投資をめぐる合意政治」	単著	2021年2月	廣野編上記書、第12章		pp. 209-236
52	ルイン・チョウ・ラツ (廣野)	「ミャンマー—中国・ミャンマー—経済回廊と国民民主連」	単著	2021年2月	廣野編上記書、第13章		pp. 237-258

	美和監訳)	盟政権の意図					
53	フリボ・ボニ (廣野美和監 訳)	パキスタン—中国・パキ スタン経済回廊と国内政治	単著	2021年2月	廣野編上記書、第14章		pp. 259-277
54	ダダバエフ・ ティムール	ウズベキスタン—脱大国主 義のシルクロード とエネルギーおよび輸送イ ンフラ整備戦略	単著	2021年2月	廣野編上記書、第15章	ドジャリロフ・ニゴラ	pp. 279-303
55	ミーナ・タドル ス・ミラード・タ ドルス(廣野 美和監訳)	中東—帯一路構想がも たらす勝者と敗者	単著	2021年2月	廣野編上記書、第16章		pp. 305-329
56	廣野美和	中国アクターのグローバル 化と帯一路の国内問題 化—日本への示唆	単著	2021年2月	廣野編上記書、終章		pp. 331-344
57	Miwa Hirono	China's Expanding Military Power in Africa	単著	2020年	<i>Dealing with China in a Globalized World: Some Concerns and Considerations</i> , Konrad- Adenauer-Stiftung	Marie Antoinette P. de Jesus ed.	pp. 71-85
58	竇少杰	アメリバ経営の中国企業 への移転可能性と課題	共著	2020年5月	『雇用関係の制度分析— 職場を質的に科学する—』 ミネルヴァ書房	樋口純平・西村純編 著	pp. 265-285
59	竇少杰	Tanzan Shuzo: The Success Story of the Fifth-generation Female CEO	共著	2020年12月	<i>Asian Family Businesses: Succession, Governance and Innovation</i> , World Scientific Pub Co Inc.	Annie Koh&Jean Lee ed.	pp. 101-111

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共 著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者 名	担当頁数	査読有 無
1	Takuo Iwata	Evolution of Comedy in Africa	単著	2020年12 月	Ritsumeikan annual review of international studies, Vol.19		pp. 1-18	無
2	君島東彦	東アジアの平和にと って日本国憲法とは 何か	単著	2020年6月	政経研究 114号		pp. 3-17	無
3	野島大輔	「若者たちの中にあ る『単一民族国家幻 想』の態様と起源— Mono State Template (MST) の研究—」	単著	2020年6月	異文化間教育学会 第41回大 会 大会抄録 個人発表(オン ライン公開)		p. 92	無
4	山根和代	日本の平和博物館	単著	2020年7月	ピース・アルマナック 2020	梅林宏道監修	pp. 208-211	有
5	山根和代	原発事故と平和教育	単著	2020年12 月	反核法律家 105号 2020年冬 号	大久保賢一	pp. 16~19	有
6	角本和理	ロボット型検索エンジ ンと私法上のプライ バシー：違法性判 断における「被侵害 利益優越の明白性」 に着目して	単著	2020年7月	末川民事法研究会, 末川民事 法研究 6号		pp. 91 -107	有
7	朱曄	日本民法法解釈の演变 対中国的启示	単著	2020年8月	南京大学学报(哲学・人文科 学・社会科学)2020年04期		pp. 126-137	無
8	小田美佐子	中華人民共和國民法 典(1)	共訳	2020年8月	立命館法学 390号	朱曄	pp. 414-477	無
9	朱曄	ビッグデータの時代 における消費者保護 をめぐって—中国の 現状を中心に	単著	2020年9月	韓国民事法学会、民事法学92		pp. 407-436	無
10	角本和理	サイバー時代におけ るプライバシーの法 理論(七・完)：私法 上の問題を中心に	単著	2020年11 月	北海道大学大学院法学研究 科、北大法学論集 71巻4号		pp. 326-242	有

11	小田美佐子	中華人民共和國民法典(2・完)	共訳	2020年12月	立命館法学391号	朱曄	pp. 436-507	無
12	朱曄	民事法の視点から見たスマートシティ実現に向けての課題解決—AI技術の発展による「市民データ権」の誕生	単著	2021年3月	静岡法務雑誌12号		pp. 189-202	有
13	板木雅彦	The formation of surplus capital in China and the capital flight crisis in 2015—2016	単著	2021年3月	THE RITSUMEIKAN ECONOMIC REVIEW Vol. 69 No. 5・6,		pp.156-192	無
14	井上博	デジタル・エコノミーと多国籍企業	単著	2021年3月	『阪南論集 社会科学編』56巻2号		pp. 97-108	無
15	井上博	サービス貿易とグローバル・バリュー・チェーン	単著	2021年3月	『立命館経済学』69巻5・6号		pp. 34-48	無
16	近藤信一	「地方中小企業におけるデザイン経営の理論構築に向けた研究—岩手県内中小企業とデザイン人材との感性に基づくマッチングの実践に関する考察—」	共著	2020年12月	『機械経済研究』No.51	三好純矢	pp.1-26	無
17	中川涼司	「文化強国を目指す中国—ソフトパワー重視と文化産業振興—」	単著	2021年3月	『日中経協ジャーナル』2021年3月号		pp.6-9	無
18	中本悟	アメリカン・グローバリズムとベトナムの貿易・投資レジームの改革	共著	2020年7月	『立命館経済学』69巻2号	末吉普幸	pp. 1-29	無
19	中本悟	アメリカ大統領選挙2020	単著	2021年1月	『経済』		pp. 89-98	無
20	森原康仁	「地政学的競争下の米中技術覇権競争—体制維持・産業アップグレード・データローカライゼーション」	単著	2020年12月	『比較経済体制研究』第26号		pp.1-17	有
21	Yasuhito Morihara	Vertical dis-integration and vertical re-integration: Limits to the modern production system	単著	2020年12月	The Japanese Political Economy, 46(2)		pp. 1-24	有
22	田村太一	アメリカにおける産業構造の変化と労使関係の変容—1980～1990年代のリストラクチャリングに着目して—	単著	2021年3月	『立命館経済学』第69巻第5・6号		pp. 61-72	無
23	嶋田晴行	A Consequence of Soviet Military Intervention in Afghanistan: Lessons Learned for the U.S. and the Taliban Agreement	単著	2020年11月	Ritsumeikan Journal of International Relations and Area Studies, Ritsumeikan University Institute of International Relations and Area Studies		pp. 199-214	無
24	菊地俊介	抗戦時期華北日偽組織中の青年	単著	2020年4月	社会科学文献出版社、『現代中国変動与東亜新格局』第二輯	田中仁・江沛・陳鴻図主編	pp.299-311	無
25	山本一	1920年代末の南京に関する英国陸軍製	共著	2020年6月	『近代東アジア土地調査事業研究ニューズレター』第10号	小林茂・片山剛	pp. 1-16 (担当箇所)	無

		地図とアメリカ海軍撮影空中写真					は抽出不能 主にアメリカ海軍撮影空中写真の事象について執筆)	
26	山本一	日本占領後の南京における「敵産」について	単著	2020年6月	『近代東アジア土地調査事業研究ニューズレター』第10号		pp.17-46	無
27	宇野木洋	白石英子「玉実味「握別」について」をめぐるとの断想	単著	2020年10月	中国文芸研究会、『野草』第105号		pp.222-229	無
28	阿部沙織	何憶鶴「小資文学」を書くこと：『衛慧みたい』にクレイジー』を読む	単著	2020年10月	中国文芸研究会、『野草』第105号		pp.216-219	無
29	菊地俊介	華北交通株式会社における「善隣協和」の矛盾	単著	2021年2月	愛知大学国際問題研究所、『国際問題研究所研究紀要』第157号		pp.37-63	有
30	山本一	黎貴惇の袞冕調査とその国際礼制における意義	単著	2021年3月	『東アジアの思想と文化』12号		pp.62-72	有
31	足立研幾	「核不拡散規範の行方—規範の消滅論の視座から」	単著	2021年3月	日本国際政治学会、『国際政治』203号			有
32	Polina Ivanova	"Civil Society Groups Involved with International Students in Japan: Typology and Social Capital Generation,"	単著	2020年	<i>Nonprofit Policy Forum</i>			有
33	小杉泰	「責任の体系としてのシャリーア —イスラーム法源学による法規定の定式化と5範疇への収斂の構造—」	単著	2021年3月	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センター『イスラーム世界研究』第14巻		pp.179-208	有
34	Jun Honna	Military Politics in Pandemic Indonesia	単著	August 1, 2020.	<i>The Asia-Pacific Journal/Japan Focus</i> , Vol.18, Issue 15, No.5			有
35	佐藤麻理絵	「イスラーム都市論からみる難民居住—ヨルダンにおけるシリア難民の事例から」	単著	2021年3月	現代人文社『難民研究ジャーナル』第10号		pp.104-116	有
36	吉川卓郎	「ヨルダンにおけるイスラーム主義の安全保障化—ムスリム同胞団とISの事例から」	単著	2020年6月	国際安全保障学会、『国際安全保障』第48巻1号		pp.78-96	有
37	山尾大	Re-securitization as Evasion of Responsibility: A Quantitative Text Analysis of Refugee Crisis in Major Arabic Newspapers	単著	2020年11月	Journal of Population and Social Studies 28 (Special Issues)		pp.1-26	有
38	宮脇昇	国際合意の政治的拘束力—CSCE/OSCEと2つの独立機関の事例」	単著	2020年8月	国際法学会, 国際法外交雑誌, 119巻2号		pp. 60-88	有
39	Polina Ivanova	“Criteria and Factors of Social Capital Generation: Study of the Interaction between Japanese CSOs and	単著	2020	Ritsumeikan Annual Review of International Studies		pp. 113-140	有

		International Students,”						
40	Budipramono, R.G	“How health actors shaped Indonesia's mild securitization of COVID-19,”		2021.3	Ritsumeikan International Affairs			有
41	Polina Ivanova	"International student satisfaction at English-medium graduate programs in Japan,"	共著	2020年	<i>Higher Education</i> , 79 (1),	Rakhshandehroo, M	pp.39-54	有
42	小杉泰	“Ijma in Islamic Law and Islamic Thought: Tradition, Contemporary Relevance, and Prospects”	共著	2021年3月	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センター『イスラーム世界研究』第14巻	池端蒔子	pp.5-29	有
43	山尾大	「ポスト紛争社会の政治動員と投票率の関係——イラクにおけるサーベイ実験から」	共著	2020年9月	JETRO アジア経済研究所『アジア経済』第61巻3号	浜中新吾	pp.2-27	有
44	クロス京子	書評: 足立研幾編著『セキュリティ・ガバナンス論の脱西欧化と再構築』	単著	2020年	『立命館アジア・日本研究学術年報』第1号		pp. 156-159	無
45	本名純	インドネシアにみるスーパーナチュラルなコロナ治療	単著	2020年7月	立命館大学国際地域研究所国際情勢解説 2020年 No.5			無
46	本名純	東南アジアにおける新型コロナウイルスとテロリズム			『治安フォーラム』2020年11月号		pp.47-53	無
47	末近浩太	「内戦後最大の政治経済危機に直面するレバノン」	単著	2021年1月	公益財団法人中東調査会『中東研究』第540号(1月), Vol. 3		pp. 7-26	無
48	末近浩太	「アラブの春」から10年: イスラム主義はなぜ敗北したのか」	単著	2021年3月	外務省『外交』Vol. 66		pp. 110-115	無
49	馬場多聞	「中世イエメンにおける奴隷」	単著	2021年1月	東京大学中東地域研究センター『アラビア半島の歴史・文化・社会』		pp.159-174	無
50	本名純	「東南アジアにおける新型コロナウイルスとテロリズム」		2020年11月	『治安フォーラム』		pp. 47-53	無
51	Haruyuki Shimada	“A Consequence of Soviet Military Intervention in Afghanistan: Lessons Learned for the U.S. and the Taliban Agreement,”		Nov.2020,	Ritsumeikan Journal of International Relations and Area Studies		pp.199-214	無
52	本名純	「インドネシアと北朝鮮: 歴史と政治」		2021年3月	『聖学院大学総合研究所紀要』No.67			無
53	Kenki Adachi	“Book Review: Emil Kirchner and Han Dorussen eds., EU-Japan Security Cooperation: Trends and Prospects,”		2021.3	Pacific and American Studies, Vol.21		pp. 167-171	無
54	廣野美和	Globalizing China and Internalizing the Belt and Road Initiative: Introduction to the Special Issue	単著	2020年11月	『立命館国際地域研究』第52号		pp. 1-4	無
55	中川涼司	中国の「一帯一路」政策と対カンボジア投	単著	2020年11月	『立命館国際地域研究』		pp. 5-32	無

		資一中所得国多国籍 企業論のパースペク ティブとその拡張			第 52 号			
56	楊鵬超	中国の対外援助と一 帯一路構想	単著	2020 年 11 月	『立命館国際地域研究』 第 52 号		pp. 33-50	無
57	楊秋麗	中国大型国有企業集 団における親会社の 純粋持株会社への移 行と国有資本運営の 課題—「官官競争」志 向改革から「グローバ ル競争」志向改革へ	単著	2020 年 11 月	『立命館国際地域研究』 第 52 号		pp. 51-70	無
58	守正毅	「一帯一路」における アジアの華人ネットワ ーク組織が果たす役 割—アジアの中華総 商会と世界華商大会 を事例に—	単著	2020 年 11 月	『立命館国際地域研究』 第 52 号		pp. 71-93	無
59	Nimid ANG	The Rise of the Sino- Thai Business Class and China's Influence in Thailand: The Case of the Charoen Pokphand Group, China's Belt and Road Initiative and Current Political Backlash	単著	2020 年 11 月	『立命館国際地域研究』 第 52 号		pp. 95-112	無
60	Lwin Cho Latt	The National League for Democracy Government's Outlook on the China- Myanmar Economic Corridor: A Harbinger of Internal Peace and Nation Development	単著	2020 年 11 月	『立命館国際地域研究』 第 52 号		pp. 113-133	無
61	Mina Tadrous Milad TADROUS	China's Belt and Road Initiative and Its Implications: Winners and Losers in the Middle East	単著	2020 年 11 月	『立命館国際地域研究』 第 52 号		pp. 135-158	無
62	中川涼司	文化強国を目指す中 国—ソフトパワー重 視と文化産業振興—	単著	2021 年 3 月	日中経済協会『日中経協ジ ャーナール』2021 年 3 月号		pp. 6-9	無
63	苑志佳	中国企業による対日 M&A の投資効果に 関する一考察——新 たな PMI 枠組みによ る検証——	単著	2020 年 7 月 30 日	立正大学『経済学季報』第 70 巻第 1 号		pp. 1-35	無
64	苑志佳	オセアニアにおける 中国多国籍企業の現 地運営特徴に関する 実証研究	単著	2020 年 10 月 20 日	立正大学『経済学季報』第 70 巻第 2 号		pp. 1-32	無
65	苑志佳	中国の半導体産業の 発展可能性に関する 要因分析	単著	2020 年 12 月 18 日	立正大学『経済学季報』第 70 巻第 3 号		pp. 1-44	無
66	苑志佳	中国型多国籍企業に 関する試論	単著	2021 年 3 月 10 日	立正大学『経済学季報』第 70 巻第 4 号		pp. 1-40	無
67	竇少杰	日本洛中高岡屋的百 年経営与创新・下(日 本洛中高岡屋の百年 経営とイノベーション (下篇))	単著	2020 年 4 月	中国経営報『家族企業』57 号		pp. 71-75	無

68	竇少杰	日本の老舗家族企業における永続経営と事業承継:株式会社高岡の事例を中心に	単著	2020年7月	立命館大学経営学会『立命館経営学』第59巻第2号		pp. 49-71	無
69	竇少杰	家族企業と「健康」(家族企業と「健康」)	単著	2020年8月	中国経営報『家族企業』61号		p. 1	無
70	竇少杰	万一失敗了、還有我在(失敗したら私が挽回できる)	単著	2020年10月	中国経営報『家族企業』63号		p. 4	無
71	竇少杰	老舗企業的経営平衡術(老舗企業の経営平衡法)	単著	2020年11月	中国経営報『家族企業』64号		pp. 38-43	無
72	竇少杰	東アジア諸社会の家族企業と事業承継—社会的視点からの予備的考察—	共著	2020年11月	立命館大学経営学会『立命館経営学』第59巻第4号	河口充勇, 洪性奉	pp. 49-71	無
73	竇少杰	日本老舗企業的柔軟性傳承(日本老舗企業の柔軟な継承術)	単著	2020年12月	中国経営報『家族企業』65号		pp. 51-58	無
74	竇少杰	日本の経営管理法の海外移転とHRM	単著	2021年3月	早稲田大学トランスナショナルHRM研究所『会報』12号		pp. 34-35	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	Takuo Iwata	“Japan’s Human Resources Cooperation and Development toward Africa”	2021年2月26日	“International Human Resources Cooperation and Development” Center for African Studies, Peking University, China (online)	
2	Takuo Iwata	“30 years of Japan’s approaches with Africa”	2020年12月5日	"Mapping Africa's Global Engagement by Reconfiguring African Studies" (Discussion Country: Japan's Africa Engagement), Center for African Studies, Jawaharlal Nehru university, India, & Institute of International Relations and Area Studies, Ritsumeikan University (online)	
3	Takuo Iwata	“Comparative studies on Asian approaches toward Africa (Asian perspective)”	2020年10月10日	"Mapping Africa's Global Engagement by Reconfiguring African Studies" (Discussion Country: South Korea's Africa Engagement), Center for African Studies, Jawaharlal Nehru university, india (online)	
4	Akihiko Kimijima	Six Faces of Article 9	August 6, 2020	Rajiv Gandhi University Webinar	
5	君島東彦	2020年アメリカ大統領選挙結果をどう見るか	2020年12月5日	日中平和学オンライン交流会(日本平和学会国際交流委員会主催)	
6	Akihiko Kimijima	East Asian Regional Cooperation	December 19, 2020	Shanghai Forum 2020, Fudan University	
7	野島大輔	「若者たちの中にある『単一族国家幻想』の態様と起源— Mono State Template (MST) の研究—」	2020年6月	異文化間教育学会 第41回大会(オンライン開催) 個人発表 セッションG	なし
8	山根和代	The Roles of the International and Japanese Networks of Museums for Peace	2020年9月	INMP Online Conference	安齋育郎他多数
9	山根和代	Human Rights and Peace Education Necessary for Mutual Understanding and True Reconciliation	2020年11月	Global Peace Forum 韓国のノグンリ平和記念館	安齋育郎他多数
10	申 鉉旻	新型コロナ禍をめぐる憲法上の諸問題の検討—韓国 の状況について	2020年8月	民科憲法分科会 2020年度夏季オンライン研究会(オンライン開催)	清水雅彦、奥野恒久
11	申 鉉旻	新型コロナと東アジア平和学: 王毅中国外相の日韓訪	2020年12月	日中平和学オンライン交流会(日本平和学会国際交流委員会企画)	和田 英穂、韓 猷棟、劉 成、佐々木 寛、任 洪生、君島 東彦

		問をめぐって			
12	角本和理	データ資本主義社会における「人」「物」概念の「交錯」と「転生」	2020年8月	民法学研究会, 同志社大学	
13	板木雅彦	The dual equation and the net economic resource	2020年10月	日本国際経済学会全国大会(九州大学)	
14	井出文紀	「着地型観光としてのアルコールツーリズム——長野県佐久地域における二つの展開事例」	2020年11月	第11回北陸地域政策研究フォーラム(兼 地域デザイン学会関西・北陸地域部会第12回研究会)	高橋愛典
15	松村博行	米中経済摩擦とエコノミックステートクラフト	2020年10月	日本国際経済学会 第79回全国大会	
16	松村博行	STEM 人材の受け入れを巡る政策決定 —トランプ政権を中心に	2020年10月	日本国際政治学会 2020年度全国大会	
17	森原康仁	地政学的競争下の米中技術覇権競争——体制維持・産業アップグレード・データローカライゼーション	2020年10月	日本国際経済学会 第79回全国大会	
18	田村太一	米中貿易摩擦とGVC	2021年10月	日本国際経済学会 第79回全国大会	
19	山本一	黎貴惇の袞冕調査とその国際礼制における意義	2020年9月	京都大学人文科学研究所研究班特別例会「清代ベトナム朝貢の諸問題」	辻高広
20	城山拓也	現代中国の作家と新型コロナウイルス——方方『武漢日記』を読む	2020年12月	連続公開講座「大人の教養倶楽部」——「ウィズ(with)コロナの時代」における新たな学び、東北学院大学(オンライン開催)	
21	鳥谷まゆみ	言文・身体・性:20世紀東アジア文学における越境と葛藤	2021年1月	第六回国際学術シンポジウム「20世紀東アジア:越境する文学形式と思考の流動」、北九州市立大学(オンライン開催)	呉世宗、津守陽、梁艶、魏辰、裴亮、波瀾剛(※総合討論/テーブルディスカッション)
22	阿部沙織	凌叔華(1900-1990)の創作と女性意識の変遷	2021年3月	中国語圏地域人文学研究会、オンライン開催	
23	上原徳子	英語版「杜十娘」について——近代における中国古典小説受容として	2021年3月	中国語圏地域人文学研究会、オンライン開催	
24	加部勇一郎	虎退治の連環画を読む	2021年3月	中国空想メディア研究会、オンライン開催	
25	宮脇昇	“A Different Corner: “Pandeconomy” without Pandemonium in NEA,”	2020年4月	Webinar on China-Japan-ROK Industrial Cooperation amid Global Spread of the COVID-19	
26	宮脇昇	「COVID-19 対策としての国境閉鎖 移動の自由と健康」	2020年5月	日本平和学会「公共性と平和」分科会	
27	宮脇昇	「大学の学びを変える『オンライン』ゲーミング」	2020年12月	日本シミュレーション&ゲーミング学会 秋期全国大会	近藤敦・宮脇昇・山上亜紗美・清嶋友喜
28	宮脇昇	資源地政学からみたモンゴル外交 —内陸性と民主主義の再考—	2021年2月	日本国際フォーラム第6回研究会 (zoom)	
29	末近浩太	「中東の紛争(発生・継続・終焉)をどのように分析すべきか」	2020年7月	オンライン開催、科学研究費補助金・基盤研究(A)「現代イスラームにおける法源学の復権と政治・経済の新動向:過激派と対峙する主流派」政治研究会「政治と暴力」科学研究費補助金・基盤研究(B)「現代中東における政治と宗教:「アラブの春」以降のムスリム同胞団を事例に」合同研究会	
30	末近浩太	“Syria, JCPOA and the New US Administration”	2021年1月	The 8th IPIS-SPF Joint Roundtable, Webinar “Regional and International Issues,” Institute for Political and International Studies (IPIS) and The Sasakawa Peace Foundation (SPF)	
31	小杉泰	「軍事と戦争の政教分離とイスラーム復興:法源学研究の観点から」	2020年7月	オンライン開催、科研費:基盤 A「現代イスラームにおける法源学の復権と政治・経済の新動向:過激派と対峙する主流派」政治研究会	

				「政治と暴力」	
32	小杉泰	「ジャマア／イジュマア論をめぐって:スナ派イスラームにおける多数派主義とその表現方法の変遷」	2020年9月	オンライン開催、 科研費:基盤A「現代イスラームにおける法源学の復権と政治・経済の新動向:過激派と対峙する主流派」イスラーム法源学「イスラーム法研究会」	池端路子
33	小杉泰	“Resurgent Islamic Jurisprudence and an Alternative Path of Development”	2020年11月	18th Asia Pacific Conference, Online	
34	小杉泰	「中東・イスラーム研究におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)の次段階へ向けて:法源学データベースの戦略を事例として」	2021年1月	オンライン開催、 公開シンポジウム「中東・イスラーム研究の新地平 ウィズコロナ時代のチャレンジ」	
35	小杉泰	「サラフとサラフィー主義(サラフィーヤ)の名づけとその系譜」	2021年1月	オンライン開催、 科研費:基盤A「現代イスラームにおける法源学の復権と政治・経済の新動向:過激派と対峙する主流派」イスラーム法研究会「サラフィー主義とは何か」	
36	小杉泰	「イスラームの性倫理とは何か:シャリーアの法益(マカースイド)論から」	2021年2月	オンライン開催、 科研費:基盤A「現代イスラームにおける法源学の復権と政治・経済の新動向:過激派と対峙する主流派」イスラーム法研究会「現代イスラーム・ジェンダー・性倫理をめぐる視座と論点整理」	
37	鳥山純子	「ほろびゆく嗜好品? エジプト都市部の「粗野で下品」でクールなリップ」	2021年2月	オンライン開催、国立民族学博物館、 「境界を楽しむ:中東・イスラーム世界の嗜好品」	
38	鳥山純子	“De-politicizing Islam, Re-politicizing Islam: An Inter-Asian Attempt”	2021年2月	Online, Session 2 Islam in Action in Inter-Asian Everyday Lives: Looking beyond Islamophobia, in Asia, Japan, and the Global Society: Developing Research through Cross-Border Academic Collaboration	
39	鳥山純子	“The challenge between Heritage and Peace” in the panel “Between Heritage and Peace: Heritage preservation in the time of “After Orientalism.”	2020年9月	Online, 10th International Conference of Museums for Peace. Kyoto	
40	馬場多聞	「中世の地中海とアデン」	2020年11月	国際商業史研究会例会	
41	馬場多聞	「14世紀のイエメンの東アフリカ出身者」	2020年11月	国立民族学博物館共同研究「人類史における移動概念の再構築:「自由」と「不自由」の相克に注目して」第二回研究会	
42	佐藤麻理絵	「“熱”からみる自然資源利用の知と実践—試論と考察—」	2020年5月	オンライン開催、日本沙漠学会第31回学術大会	後藤真実、實野雅太、西川優花
43	本名純	新型コロナ危機と東南アジアの民主主義	2020年9月28日	第85回政策本会議、東アジア共同体評議会	
44	本名純	新型コロナ危機下のインドネシア～国内政治と外交の共鳴	2020年11月7日	アジア政経学会2020年秋季大会	
45	本名純	ジョコウィ政権のパンデミック政治	2020年11月29日	インドネシア研究懇話会第2回研究大会シンポジウム2「新型コロナウイルスとインドネシア」	
46	本名純	コロナ禍のインドネシアにおける越境犯罪	2021年1月26日	アジア・インフォーマリティ研究会	
47	Kyoko Cross,	”The Pursuit of Justice, Truth, and Peace: Reflections on 20 Years of Imperfect Transitional Justice in Timor-Leste.”	December 10, 2020	9th Biennial Oceanic Conference on International Studies	
48	本名純	「新型コロナ危機下のインドネシア～国内政治と外交の共鳴」	2020年11月7日	アジア政経学会2020年秋季大会	

49	本名純	「コメント報告～ASEANの視点を交えて」	2020年11月15日	グローバル・ガバナンス学会第13回研究大会	
50	Kenki Adachi	“Consequences of Securitization of COVID-19 by Private Actors in Japan: Emergence of the “Voluntary Restraint Police” and its impact on Human Security.”	November 29, 2020	Japan Association for Human Security Studies 2020 Annual Conference	
51	Budipramono, R.G	“How health actors shaped Indonesia's mild securitization of COVID-19;”	November 29, 2020	Japan Association for Human Security Studies Annual Conference	
52	本名純	「ジョコウィ政権のパンデミック政治」	2020年11月29日	インドネシア研究懇話会第2回研究大会シンポジウム	
53	Poilna Ivanova,	“Attitudes Matter: International Students’ Engagement with Formal and Informal Voluntary Organizations in Japan,”	December 5, 2020	Anthropology of Japan in Japan (AJJ) Annual Meeting	
54	本名純	「コメント～インドネシアの視点から」	2021年1月9日	『シンポジウム北朝鮮の経済と貿易』	
55	本名純	「コロナ禍のインドネシアにおける越境犯罪」	2021年1月26日	インフォーマリティ研究会	
56	Poilna Ivanova	“Human Security of International Students in Japan,”	February 27, 2021	The 5th Anniversary International Symposium of Asia-Japan Research at Ritsumeikan University	
57	廣野美和	Impact of China’s Decision-Making Processes on International Cooperation: Cases of Peacekeeping and Humanitarian Assistance/Disaster Relief	2020年12月7－11日	The Australian National University, 9th Biennial Oceanic Conference on International Studies	
58	廣野美和	Roundtable Ordering Practices in East Asia: Change and Continuity	2020年12月7－11日	The Australian National University, 9th Biennial Oceanic Conference on International Studies	
59	廣野美和	China’s Peacebuilding in South Sudan: “Top-Down” Adaptation and Its Effectiveness	2021年2月27日	The Fourth Authors’ Workshop for the JICA Sustainable Peace Project	
60	廣野美和	一帯一路は何をもたらしたのか：中国問題と投資のジレンマ	2021年3月22日	立命館大学国際地域研究所、出版記念国際ウェビナー	
61	廣野美和	一帯一路のグローバル・ガバナンスと国内ガバナンスへの影響	2021年3月22日	立命館大学国際地域研究所、出版記念国際ウェビナー	
62	大門(佐藤)毅	一帯一路と日本:「互恵的援助競争」の可能性	2021年3月22日	立命館大学国際地域研究所、出版記念国際ウェビナー	
63	青山瑠妙	計画外交で推進されている一帯一路構想	2021年3月22日	立命館大学国際地域研究所、出版記念国際ウェビナー	
64	梶谷懐	一帯一路構想は新興国に「債務の罠」をもたらすか	2021年3月22日	立命館大学国際地域研究所、出版記念国際ウェビナー	
65	中川涼司	一帯一路における貿易・投資・援助の三位一体的展開—カンボジアを事例に	2021年3月22日	立命館大学国際地域研究所、出版記念国際ウェビナー	
66	楊鵬超	一帯一路構想と対外援助の多様化	2021年3月22日	立命館大学国際地域研究所、出版記念国際ウェビナー	
67	楊秋麗	大型国有企業集団——「グローバル競争」志向改革への転換	2021年3月22日	立命館大学国際地域研究所、出版記念国際ウェビナー	

68	薛軍	民営企業の対外直接投資: 特徴と問題	2021年3月22 日	立命館大学国際地域研究所、 出版記念国際ウェビナー	
69	守正毅	華人ネットワーク—アジアの 中華総商会と世界華商大会 を事例に	2021年3月22 日	立命館大学国際地域研究所、 出版記念国際ウェビナー	
70	ニミッド・アン	タイ——東部経済回廊とタ イ華人ビジネス階級	2021年3月22 日	立命館大学国際地域研究所、 出版記念国際ウェビナー	
71	トリシア・ウィジ ヤヤ	インドネシア—ジャカルタ・ バンドン高速鉄道と投資を めぐる合意 政治	2021年3月22 日	立命館大学国際地域研究所、 出版記念国際ウェビナー	
72	ルイン・チョウ・ ラッ	ミャンマー—中国・ミャンマ ー経済回廊と国民民主連盟 政権の意図	2021年3月22 日	立命館大学国際地域研究所、 出版記念国際ウェビナー	
73	フリッポ・ボ ニ	パキスタン—中国・パキスタ ン経済回廊と国内政治	2021年3月22 日	立命館大学国際地域研究所、 出版記念国際ウェビナー	
74	ダダバエフ・ ティムール	ウズベキスタン—脱大国主 義のシルクロードとエネルギー 及び輸送 インフラ整備戦略	2021年3月22 日	立命館大学国際地域研究所、 出版記念国際ウェビナー	ドジャリロワ・ニゴラ
75	ミーナ・タドル ス・ミラード・タ ドルス	中東——帯一路構想がもた らす勝者と敗者	2021年3月22 日	立命館大学国際地域研究所、 出版記念国際ウェビナー	
76	中川涼司	中国経済の2つの「窓」とし ての香港、台湾とその役割 変化	2020年10月 31日	日本現代中国学会第70回全国学術大 会共通論題	
77	苑志佳	中国の基盤産業の国産化 は可能か—半導体産業を中 心に—	2020年12月 27日	産業学会東部研究会	
78	苑志佳	国際循環が世界にもたらす 影響について	2021年1月28 日	華人教授会議と日中関係学会共催研究 会	
79	竇少杰	新冠疫情下の日本百年老 舗企業(コロナショックの中 の日本の老舗企業)	2020年7月	2020RFP 梁輝商学院第一回オンライン セミナー, オンライン	
80	竇少杰	解説“日本工匠精神”(日本 の職人精神について)	2020年7月	第33回製造業高品質発展大講堂(主催: 中国工業和信息化部工業文化發展中 心), オンライン	
81	竇少杰	日本の老舗家族企業の矛 盾と調和	2020年12月	2020 第7回中国家族企業傳承主題論 壇&中欧第9回中国家族傳承論壇(主 催: 中国『家族企業』雜誌社&中欧國際 工商学院), 中国福建省厦門市	高岡幸一郎
82	竇少杰	日本長寿家族企業的永続 發展和家業傳承(日本長寿 家族企業の持続成長と事業 承継)	2021年3月	「企業史学遇見管理学」オンラインライブ 講座シリーズIV(“企业史遇見管理学”直 播系列之四)(主催:中国管理学会・中国 史学会), オンライン	

No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	Comparative Study of Indonesian and Japanese Foreign Policy towards Africa [Africa: Crossroad (Scramble) of (Re)Emerging Forces – Webinar Series 1]	Online	2020年6月23日	10名	
2	国際地域研究所ウェビナーシリーズ「新型コロナウイルス蔓延と各国の対応」(計4回)	Online	7月31日 9月2日 10月9日 12月11日	7月31日(20名)、9月2日(120名)、10月9日(60名)、12月11日(30名)	ASEAN 共同体時代の人間の安全保障プロジェクト
3	EAST AFRICA IN THE FACE OF INTERNATIONAL COMPETITION: SCRAMBLE FOR KENYA, TANZANIA, AND UGANDA (A reflection on Economic cooperation between Russia and East Africa) [Africa: Crossroad (Scramble) of (Re)Emerging Forces – Webinar Series 2]	Online	2020年10月5日	30名	Institute for African Studies, Russian Academy
4	「COVID-19と内陸国」立命館大学国際地域研究所重点プロジェクト・ウェビナー	Online	2020年10月23日	56名	
5	シンポ・グローバル・ガバナンスの現在	Online	2020年11月14-15日	110名	グローバル・ガバナンス学会
6	Region-building in Africa: Patterns and Prospects [Africa: Crossroad (Scramble) of (Re)Emerging Forces – Webinar Series 3]	Online	2020年11月20日	36名	The Research Institute for Social Science, Ryukoku University
7	Mapping Africa's Global Engagement by Reconfiguring African Studies (Discussion Country: Japan's Africa Engagement), Center for African Studies, Jawaharlal Nehru university, india, & Institute of International Relations and Area Studies, Ritsumeikan University (online) [Africa: Crossroad (Scramble) of (Re)Emerging Forces – Webinar Series 4]	Online	2020年12月5日	80名	The Centre for African Studies, Jawaharlal Nehru University (JNU), New Delhi & African Studies Association of India (ASA India)
8	中東・イスラーム時代の新地平 ウィズコロナ時代のチャレンジ	Online	2021年1月9日	43名	(主催・共催)立命館大学アジア・日本研究所、中東・イスラーム研究センター、国際地域研究所 科研費基盤 A「現代イスラームにおける法源学の復権と政治・経済の新動向:過激派と対峙する主流派」(研究代表者:小杉泰) 科研費基盤 B「イスラーム金融の新実践における初期規範理論の復権と発展的再構築」(研究代表者:長岡慎介) 科研費基盤 B「現代中東における政治と宗教:「アラブの春」以降のムスリム同胞団を事例に」(研究代表者:横田貴之) 科研費基盤 B「計量テキスト分析を用いた現代中東における新たな政治的動員に関する実証研究」(研究代表者:末近浩太) 科研費新学術領域研究計画研究 B02「越境的非国家ネットワーク:国家破綻と紛争」(研究代表者:末近浩太) NIHU プログラム「現代中東地域研究」京大拠点・第2班「イスラーム中道派研究班」第3班「イスラーム経済研究班」
9	3.11 後の路上に現れた抵抗の知性と希望	Online	2021年2月14日	31名	
10	Cold Border (ウェビナー)	Online	2021年2月	50名	
11	中国語圏地域人文学研究会	Online	2021年3月6日	20名	
12	CSCE/OSCE とユーラシア研究会	Online	2021年3月6日	5名	
13	The Belt and Road Initiative Globalizing China and Internalizing the BRI (一帯一路は何をもたらしたのか、中国問題と投資のシレンマ)	Online	2021年3月22日	150名	立命館大学国際地域研究所

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	田村あずみ	書評会報告	イベント「冷笑の時代に、声を上げるといふこと」、Voice Up Japan 主催、Zoom	2020年11月21日
2	田村あずみ	対談イベント	出版記念対談「災厄と想像力——3.11 は私たちに何をもちたのか」GACCOH 主催、京都市左京区	2021年2月6日
3	田村あずみ	研究会報告	研究会「3.11 後の路上に現れた抵抗の知性と希望—10年後に考える」立命館大学国際地域研究所平和主義研究会主催、Zoom	2021年2月14日
4	山根和代	海外と日本の平和博物館ネットワークを通して、非核の世界を	非核の政府を求める兵庫の会	2020年10月
5	井上 博	翻訳	G・イェットギリエス著(井上博訳)『多国籍企業論—概念・理論・影響—』同文館出版	2021年3月
6	井上 博	講演「米中デカップリングは実現するか—アメリカ新政権と米中摩擦のゆくえ—」	研究・イノベーション学会関西支部研究会(於:大阪電気通信大学駅前キャンパス)	2021年3月24日
7	松村博行	「米中デカップリング」はどのように進んでいるのか	α-Synodos (281)	2020年11月
8	嶋田晴行	中村医師、凶弾に倒れて1年 アフガンの苦境と一筋の光(インタビュー記事)	朝日新聞デジタル	2020年12月4日
9	嶋田晴行	アフガニスタン復興:日本にできることは何か?	nippon.com	2020年5月18日
10	宇野木洋	(コラム)立命館孔子学院院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと!？」その47~58(計12篇)	立命館孔子学院 HP	2020年4月~21年3月
11	宇野木洋	(評論)日本における「華文ミステリ」の流行?!—中国「大衆文学」人気の一環として	『日中友好新聞(京都府連版)』第285号	2020年4月15日付
12	宇野木洋	(書籍解題)韋君宜『思痛録—記憶の中の中国革命』	『中国文芸研究会会報』第464号(中国文芸研究会)	2020年6月
13	鳥谷まゆみ	(書評)小川利康著『叛徒と隠士—周作人の一九二〇年代』	『現代中国』第94号	2020年10月
14	宇野木洋	(書評)現実と象徴の間で紡ぎ出される寓意に満ちた文体と圧倒的な構想力—閻連科著・谷川毅訳『丁庄の夢』	『図書新聞』第3469号	2020年10月31日付
15	加部勇一郎	(講演)纏足を描いた小説	立命館孔子学院(中国古典文化講座)	2020年12月19日
16	城山拓也	(エッセイ)梅干菜の入った餅	『TONGXUE』第61号、pp.14-15	2021年3月
17	鳥谷まゆみ	(報告書)国際学術シンポジウム<言文・身体・性—20世紀東アジア文学における越境と葛藤>	北九州市立大学地域戦略研究所、『北九州市立大学地域戦略研究所年報2020年版』第1号	2021年3月31日
18	足立研幾	「アフター・コロナの国際地域①:瀕死のWHOがアフター・コロナに突きつけるもの」	『国際地域研究所・国際情勢解説』2020年、No.2.	
19	本名純	「アフター・コロナの国際地域③:東南アジアにみる新型コロナ危機の政治インパクト」	『国際地域研究所・国際情勢解説』2020年、No.4.	
20	本名純	「アフター・コロナの国際地域④:インドネシアにみるスーパーナチュラルなコロナ政治」	『国際地域研究所・国際情勢解説』2020年、No.5.	
21	松田正彦	「アフター・コロナの国際地域⑤:コロナ禍のミャンマーと「新しい生活様式」	『国際地域研究所・国際情勢解説』2020年、No.6	
22	足立研幾	核兵器禁止条約の発効を受けて」	『『国際地域研究所・国際情勢解説』2021、No.1	
23	Kenki Adachi	“Pact eyes nuclear-arms-free world. Is it promising or merely paper?”	Voices on Peace and War, Norwich University	February 22, 2021
24	末近浩太	現代のことば	京都新聞 夕刊1面 計6回掲載	2020年4月~2021年2月
25	末近浩太	「ヒズボラ完全排除 考えにくい(考論)」	朝日新聞 国際面	2020年9月28日

26	末近浩太	「18 宗派が共存するレバノン「クサイものにふた」の過去(今さら聞けない世界)」	朝日新聞デジタル	2020年8月14日
27	本名純	「コロナ対策のリーダーシップ」	『じゃかるた新聞』	2020年4月13日
28	本名純	「データの政治」	『じゃかるた新聞』	2020年5月11日
29	本名純	「インドネシア政治ウォッチ 2020年3月」	『月刊インドネシア』	2020年4月号、p.25
30	本名純	「インドネシア政治ウォッチ 2020年4月」	『月刊インドネシア』	2020年5月号、p.26
31	本名純	「コロナと過激主義」	『じゃかるた新聞』	2020年6月8日
32	本名純	「インドネシア政治ウォッチ 2020年5月」	『月刊インドネシア』	2020年6月号、p.23
33	本名純	「インドネシア政治ウォッチ 2020年6月」	『月刊インドネシア』	2020年7月号、p.22
34	本名純	「コロナと超自然」	『じゃかるた新聞』	2020年7月13日
35	本名純	「テフロン大統領」	『じゃかるた新聞』	2020年8月10日
36	本名純	「インドネシア政治ウォッチ 2020年7月」	『月刊インドネシア』	2020年8月号、p.26
37	本名純	「PSBB をめぐる政治」	『じゃかるた新聞』	
38	本名純	「インドネシア政治ウォッチ 2020年8月」	『月刊インドネシア』	2020年9月号
39	本名純	「コロナ禍のインドネシアとアンダーグラウンド」	ジャカルタ菱友会	2020年7月15日
40	本名純	「コロナ禍のインドネシア政治」	MUFG 銀行ジャカルタ支店オンラインセミナー	2020年7月20日
41	本名純	「新型コロナ危機と東南アジアの民主主義」	第85回政策本会議、東アジア共同体評議会	2020年9月28日
42	本名純	「コロナ禍のインドネシア政治」	日本インドネシア協会月例講演会	2020年9月30日
43	嶋田晴行	「アフガニスタン復興:日本にできることは何か?」	nippon.com	2020年5月18日
44	本名純	「オムニバス法の立法過程」	『じゃかるた新聞』	2020年10月12日
45	本名純	「コロナ禍の選挙」	『じゃかるた新聞』	2020年11月9日
46	嶋田晴行	「中村医師、凶弾に倒れて1年 アフガンの苦境と一筋の光」	『朝日新聞デジタル』	2020年12月4日
47	本名純	「FPI 捌きの政治」	じゃかるた新聞	2020年12月14日
48	本名純	「米国とインドネシアの政治病」	『じゃかるた新聞』	2021年1月11日
49	本名純	「ミャンマーとインドネシア」	『じゃかるた新聞』	2021年2月8日
50	本名純	「ユドヨノ党の危機」	『じゃかるた新聞』	2021年3月8日
51	本名純	「雇用創出オムニバス法案にみるコロナ政治」	『月刊インドネシア』	2020年10月号、p.23
52	本名純	「地方首長選挙が実施される理由」	『月刊インドネシア』	2020年11月号、p.4
53	本名純	「FPI リーダー・リジック逮捕の意味」	『月刊インドネシア』	2020年12月号、p.7
54	本名純	「2020年全国首長選挙の結果と今年の政治課題」	『月刊インドネシア』	2021年1月号
55	本名純	「ミャンマー政変から考えるインドネシア」	『月刊インドネシア』	2021年2月号
56	本名純	「2024年選挙を睨んだ野党対策」	『月刊インドネシア』	2021年3月号
57	廣野美和	書評:吉川純恵『中国の大国外交への道のり——国際機関への対応をめぐって』	『現代中国』94号 127-132頁	2020年10月

58	廣野美和	Exploring UK-China Cooperation in Non-Traditional Security	Partnership for Conflict, Crime and Security Research,	2020年7月
59	苑志佳	中国型の多国籍企業	明治大学主催「日中ビジネスの最前線」	2020年11月16日

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	衣笠三郎	財団法人〇〇財団	〇〇優秀文化賞	〇〇に関する研究	2014年10月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	君島東彦	憲法平和訴訟の国際比較研究	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	代表
2	田村あずみ	3・11後の社会運動の国際的意義—民主主義の危機における「身体性の政治哲学」構想	若手研究	2019年4月	2022年3月	代表
3	松村博行	科学技術イノベーションの遍在化が国家安全保障に与える影響—米国を事例として—	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
4	嶋田晴行	難民問題と援助の関係性	若手研究	2019年4月	2022年3月	代表
5	足立研幾	セキュリティ・ガバナンス概念の再検討	基盤研究(C)	2017年4月	2022年3月	代表
6	足立研幾 本名純	包括型コミュニティ・ポリシング: 東南アジアにおける武装組織の社会統合モデル	基盤研究(B)	2020年4月	2022年3月	分担
7	本名純	インドネシアの中央・地方レベルにおける選挙政治の変容と「庶民派」リーダーの台頭	基盤研究(C)	2017年4月	2021年3月	代表
8	本名純	インフォーマル化するアジア: グローバル化時代のメガ都市のダイナミクスとジレンマ	基盤研究(A)	2019年4月	2023年3月	分担
9	本名純	東アジア秩序再編と統合の進展における日中ASEAN	基盤研究(B)	2020年4月	2022年3月	分担
10	本名純	北朝鮮の体制の持続性の根拠: 中東・東南アジア・アフリカとの国際ネットワーク	基盤研究(B)	2020年4月	2023年3月	分担
11	末近浩太	「越境的非国家ネットワーク: 国家破綻と紛争」	新学術領域研究グローバル関係学 計画研究 B02	2016年6月	2021年3月	代表
12	末近浩太	「計量テキスト分析を用いた現代中東における新たな政治的動員に関する実証研究」	基盤研究(B)	2019年4月	2022年3月	代表
13	末近浩太	「グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて: 関係性中心の融合型人文社会科学の確立」	新学術領域研究グローバル関係学 総括班	2016年6月	2021年3月	分担
14	末近浩太	「関係性を中心とした融合型人文社会科学のための国際学術ネットワークの解明」	新学術領域研究グローバル関係学 国際活動支援班(酒井)	2016年6月	2021年3月	分担
15	末近浩太	「東アラブ地域の非公的政治主体による国家機能の補完・寡奪に関する研究」	基盤研究(A)	2018年4月	2023年3月	分担
16	末近浩太	「紛争地域における「記憶」と「安全保障化」のメカニズム——「東地中海」を事例に」	基盤研究(B)	2019年4月	2023年3月	分担
17	末近浩太	「現代中東における政治と宗教——「アラブの春」以降のムスリム同胞団を事例に」	基盤研究(B)	2019年4月	2022年3月	分担
18	馬場多聞	イスラーム共同体の理念と国家体系	学術変革領域研究(A)	2020年11月	2025年3月	分担
19	小杉泰	「現代イスラームにおける法源学の復権と政治・経済: 過激派と対峙する主流派」	基盤研究(A)	2019年4月	2024年3月	代表
20	小杉泰	現代カザフスタンにおける多民族共存主義の形成と展開についての研究	特別研究員奨励賞	2020年4月	2022年3月	代表
21	鳥山純子	「2011年革命後エジプト都市部における「ろくでなし」社会研究」	若手研究	2020年4月	2024年3月	代表
22	鳥山純子	「ポスト・アラブの春時代における中東ムスリムのグローバル移動と社会関係の複合的再編」	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化B)	2019年10月	2024年3月	分担
23	鳥山純子	「感情労働の地域・階級間比較にみる「近代家族」、フェミニズム思想の越境性とその限界」	基盤研究(B)	2018年4月	2022年3月	分担

24	鳥山純子	「イスラーム・ジェンダー学と現代的課題に関する応用的・実践的研究」	基盤研究(A)	2020年4月	2024年3月	分担
25	宮脇昇	「変貌する大国間関係 グローバル市民社会の交錯とグローバル・ガバナンス」	基礎研究(B)	2018年4月	2021年3月	分担
26	廣野美和	中国の国際紛争における役割:『不介入主義』の現実	基盤研究(C)	2017年4月	2022年3月	代表
27	中川涼司、楊秋麗、守政毅、苑志佳	中国多国籍企業の発展の現段階と中所得国多国籍企業論	基盤研究(C)	2018年4月	2022年3月	代表、分担、分担、分担
28	陳晋	外部環境の変化に伴う中国製造業企業の成長戦略と競争力に関する研究	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	代表
29	竇少杰	家族企業の事業承継問題に関する日中台の国際比較研究	基盤研究(C)	2017年4月	2021年3月	代表
30	松田正彦	「脱農業化」する東南アジアに求められる熱帯農業理論の構築	基盤研究(B)	2018年4月	2023年3月	代表
31	森下明子	民主化期インドネシアにおける国民の国軍観と国軍・社会関係に関する地域研究的分析	基盤研究(C)	2020年4月	2024年3月	代表
32	白戸圭一	2010年代日本の対アフリカ政策～「反応」から「戦略」への転換を検証する	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	角本和理	新型コロナウイルス問題対応の法制度論的(法政策論的)考察	日本学術振興会, 課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業	2020年	2023年3月	分担

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
1	立命太郎	特許(国内)	本人単独	筆頭発明者	****	****	****	日本